

[2018-2023]

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」

四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト

キックオフシンポジウム **2018**

男性育児・家事推進セミナー

シェアする社会へ

男女がともに

輝く瞬間を

ライフ
でも

ワーク
でも

2019. **1.22** [火]
13:30-16:50

藤井節郎記念ホール
徳島大学蔵本キャンパス
藤井節郎記念医科学センター1F

育てる男が、家族を変える。社会が動く。



【主催】四国ダイバーシティ推進委員会（徳島大学・鳴門教育大学・香川大学・愛媛大学・高知大学
徳島県立工業技術センター・徳島県立農林水産総合技術支援センター・アオイ電子株式会社・協和株式会社）
【後援】徳島県・徳島市・NHK徳島放送局・徳島新聞社・四国放送・男女共同参画学協会連絡会

Program

13:30 開会挨拶

野地 澄晴

徳島大学長

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型) 総括責任者

13:50 来賓挨拶

楠目 聖 氏

文部科学省 科学技術学術政策局 人材政策課 人材政策推進室長

14:10 基調講演

藤田 結子 氏 明治大学商学部 教授

演題 男性育児が組織・社会にもたらす好影響

——「ワンオペ育児」からみんなで育児へ

<座 長> **丹黒 章** 徳島大学AWAサポートセンター 副センター長/医学部長

大学院医歯薬学研究部 胸部・内分泌・腫瘍外科学分野 教授

15:20 男性育児・家事推進セミナー

松下 健太 氏 徳島県立中央病院 外科医長

演題 育休が変わる ～男性の意識改革・働き方改革～

<座 長> **葉久 真理** 徳島大学AWAサポートセンター長

大学院医歯薬学研究部 助産学分野 教授

16:00 休憩

16:10 対談

藤田 結子 氏 × 松下 健太 氏

演題 仕事・ライフイベントで訪れる“輝く瞬間”をシェアするために

<聴き手> **石澤 有紀** 徳島大学AWAサポートセンター准教授

16:40 閉会挨拶

根本 幸枝

徳島大学理事・副学長/男女共同参画推進室長

〈総合司会〉 **住谷 さつき**

徳島大学AWAサポートセンター 副センター長
特別修学支援室 教授

基調講演 14:10

<座長> **丹黒 章**

徳島大学医学部長・AWAサポートセンター 副センター長

男性育児が組織・社会にもたらす好影響 ——「ワンオペ育児」からみんなで育児へ

藤田 結子 氏

明治大学商学部 教授



要 旨

「イクメン」意識が高まる今日でも、約7割の父親は育児をしていません。しかし、父親の家事育児参加は、子どもの自尊心や社交性を高める、非行を減らす等の好影響があります。職場における女性の活躍にも不可欠です。また、高齢期の男性では、仕事以外の活動をしてきた人のほうが生活満足度が高いといえます。長時間労働を解消し、男性が家事育児に参加することが、組織と社会にもたらすよい影響について考えます。

略 歴

明治大商学部教授。米コロンビア大学で修士号、英ロンドン大学で博士号を取得。専門分野は社会学。現場で参与観察する手法で、メディア、文化、グローバリゼーション、ジェンダー分野のフィールド調査を行う。毎日新聞経済プレミアでコラム「育児サバイバル」を連載中。その中で、母親たちがSNSで使っている「ワンオペ育児」という言葉を紹介したところ、この新語が爆発的に子育て世代に広まり、平成29年の流行語大賞にノミネートされるまでになった。単著に『ワンオペ育児』（毎日新聞出版、2017年）など。

男性育児・家事推進セミナー 15:20

<座長> **葉久 真理** 徳島大学AWAサポートセンター長

育休が変わる ～男性の意識改革・働き方改革～

松下 健太 氏

徳島県立中央病院 外科医長



要 旨

共働き世帯の割合は60%を越えています。しかし、家事・育児に関しては、相変わらず女性の負担が大きいのが現状です。男女共同参画が謳われる昨今、この現状を打開するために、男性の意識改革・働き方改革が必要と考えられます。

育児休暇を取得したことで、今まで見えていなかったものが見えてきました。

自身の育児休暇についてシェアすることで、男性の意識改革・働き方改革、ひいては男女が共に輝ける社会につながれば幸いです。

略 歴

平成21年4月 徳島大学医学部医学科卒業

平成21年4月 麻生飯塚病院 初期研修医

平成23年4月 徳島県立中央病院 外科後期研修医

平成26年4月 徳島県立中央病院 外科スタッフ

対談 16:10

仕事・ライフイベントで訪れる “輝く瞬間”をシェアするために

対談

聴き手

藤田 結子 氏 × 松下 健太 氏

石澤 有紀



明治大学商学部 教授



徳島県立中央病院 外科医長



徳島大学AWAサポートセンター
准教授

要 旨

性別による役割が現在よりもなお明確に分けられていた時代、女性は仕事における苦勞や責任感、やりがい、緊張感、競争、達成感といった『仕事で訪れる輝く瞬間』を経験することができませんでした。一方男性は、子どもの小さな成長を間近で見る喜びや悩み、家事のルーティーンワークに追い立てられる切迫感と達成感など『ライフイベントで訪れる輝く瞬間』を経験する機会が得られませんでした。

これからは、いいことも悪いことも全て含んだ“輝く瞬間”を男女分け隔てなくシェアできる社会を目指すため、個人・組織・社会のそれぞれのレベルで何が求められているか、藤田結子先生、松下健太先生と考えます。

男女共同参画宣言

女性研究者による優れた教育研究活動の支援に努めます ～ 四国内国立5大学による男女共同参画推進共同宣言 ～

- 私たち四国に位置する国立5大学は、地域に根ざした大学として、特色ある世界水準の教育研究を推進するとともに、地域の発展の基盤となる人材の育成、文化芸術、産業、医療等の振興、充実への貢献に努めています。
- 男女共同参画基本法制定以来10年を経て、産業構造の変化とともに、女性は社会経済活動等に積極的に参画し、性別にかかわらず活躍の場を広げています。特に急速な少子高齢化が進む四国地域では、女性の一層の参画が社会・経済活動等の維持・発展で不可欠となっています。
- このような中、私たちは、女性研究者、女子学生の積極的な活動は、多様な視点や発想を取り入れ、教育研究活動を活性化し、組織としての創造力を発揮する上で極めて重要であり、より多数の優秀な女性研究者、学生が意欲的に教育研究に取り組むことが各大学、ひいては四国地域の今後の発展に大きく寄与すると認識し、全国の才能溢れる女性が四国の地にいざなわれ、この地で活躍することを強く期待します。
- このため、私たちは、各大学において女性が教育研究において一層活躍できる環境を重点的に整備するとともに、次世代を担う女子学生の育成に努力し、さらに、古来より遍路道で結ばれた四国における大学、研究機関、地方自治体、企業、市民との連携を強めることにより、男女ともに個性と能力を発揮できる大学と社会の実現に貢献することを宣言します。

< 私たちの重点的な取組 >

1. 優秀な女性研究者の数の拡大を目指し、教員公募において全国からの女性研究者の応募を期待し、優秀な女性研究者を積極的に登用すること。
2. 女性研究者の優れた教育研究の取組を積極的に支援すること。
3. 男女共同参画の視点に立った教育・研究環境及び就業体制を確立すること。
4. 大学の構成員の教育・研究・就業と家庭生活との両立を支援すること。
5. 女性のキャリア形成と次世代の育成にかかる取組を充実すること。
6. 大学運営における意思決定過程での女性の積極的な参画を推進すること。
7. 男女共同参画の推進にむけた大学をはじめとする関係機関のネットワークを構築すること。

平成23年2月22日

徳島大学長	香川 征
鳴門教育大学長	田中 雄三
香川大学長	一井 眞比古
愛媛大学長	柳澤 康信
高知大学長	相良 祐輔



中国・四国地区国立大学 男女共同参画推進のための共同宣言

男女共同参画社会，すなわち全ての個人が持つ資質・能力を発揮できる社会の実現は，我が国の発展にとって重要かつ喫緊の課題です。中国・四国地区の10国立大学は，高等教育・研究機関として，地域発展の重要な先導を担い，学術研究の一層の進展及び有為な人材育成に貢献する責務を負っています。

これまで私たちは，男女共同参画社会の実現を目指して女性研究者支援や男女共同参画に関する意識啓発等，活発な取組を推進してきました。

今後とも特徴ある取組を継続し，一層発展させていくとともに，次の5項目を実行していくことを宣言します。

- 大学構成員の女性比率の向上に努め，かつ意思決定過程への女性の参画機会を拡大すること
- 大学構成員が持てる資質・能力を最大限発揮できる教育・研究及び就労環境を整備・充実すること
- 男女共同参画の視点に立った人材育成を推進すること
- 男女共同参画社会実現への取組において，シンポジウム等を継続開催し地域との協力・協働を進めること
- 男女共同参画社会実現に向けて，地区内での大学間の相互交流と連携を一層深化させること

平成23年11月11日

鳥取大学長	能勢隆之
島根大学長	山本廣基
岡山大学長	森田 潔
広島大学長	浅原利正
山口大学長	丸本卓哉
徳島大学長	香川 征
鳴門教育大学長	田中雄三
香川大学長	長尾省吾
愛媛大学長	柳澤康信
高知大学長	相良祐輔

四国ダイバーシティ推進委員会



人・地域をはぐくみ 未来をつくる
— 徳島大学 70 —



徳島大学AWAサポートセンター

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町3-18-15

Tel.088-633-7538 fax.088-633-7572

awa@tokushima-u.ac.jp

<http://www.awasapo.tokushima-u.ac.jp>